子どもとメディア 北海道

第４８号
２０２２年
４月発行
今期第４号

「子どもとメディア北海道」研修会(オンライン)
●日時：３月１９日(土)　１０時から２時間程度
●講師：北海道大学教育学研究院乳幼児発達論研究室の川田准教授と留学生の王晴（オウ セイ）さん
●内容：王晴さんの修士論文に学ぶ
「デジタル絵本のインタラクティブ機能が幼児の物語理解に与える影響：紙絵本との比較を通して」
コーディネーター：川田学さん

★ 前回の情報誌に続き、北大の川田先生のご尽力により、今回の研修会が開催できました。心より感謝いたします。１７名（うち、会員は１１名）に参加いただき、質疑応答も活発に行われました。
★ 当日の王さんの発表を川田先生が、概要としてまとめて下さったので、送付しますね。研究というのは、それまでの先行研究を土台として、実験や調査等を計画・実施して、その結果を客観的に分析していくものなのだと学びました。一つの研究から導き出される「示唆」がたくさん蓄積されて少しずつ「子どもの発達への影響」が、明らかにされていく・・・なので、私達も誰かに伝える機会を得た時は、「自分の考えと同じ方向」だからと言って、その部分だけを強調し過ぎずに、客観的な伝え方を心掛ける必要があると、改めて感じました。
★ この講座については、大学の保育関係の先生からも複数問い合わせがあり、川田先生に了承を得て、資料を送りました。日本では、紙の絵本の研究や読み聞かせの効用の研究が数多く発表されているので、王さんの研究への関心が高いのでは？・・と思いました。

☆当日参加者からの感想（アンケートは準備しなかったので、終了後に寄せていただいた感想です。）

【会員外の方からの感想です（ナカヤ個人に送って下さった感想です。嬉しいですね。）】
＊先日はとても良い研修会を開催頂き、感謝申し上げます。王さんの研究はもとより、川田先生の補足でこれからのデジタルに対するかかわり方のヒントをいただいたと思います。そして、資料もありがとうございます。
＊今日はどうもありがとうございました。王さん、川田先生のお話が聞けて、とても良かったです。
「だって紙の絵本の方がいいでしょ！」と、感覚的に思っていて、なぜと聞かれたら、、、だって、何となくとしか言えない自分がいましたが、私のなんとなくを、王さんが研究して、お話ししてくださりとても嬉しく、思いました。川田先生の、「なんのために？」本当にその通りだと思います。ありがとうございました。

【会員からの感想です】

＊今村さん(ぷれいおん・とかち)

中谷さん、ありがとうございます。オンラインで川田先生がリンクを貼ってくださったので、ダウンロードして復習したところです。絵本をただ“見る”、という行為が“思考する”ことに深く結びついているという川田先生のご指摘が興味深かったです。子どもがぼぉーっとしている時間が大事だと、いつもお母さんたちに話しているので、似ているなぁ、と感じました。今思いついたので、お伝えしますね。いつも有益な情報をありがとうございます❣

＊櫻井インストラクター

僕なりの解釈になりますが、以下感じたことをまとめてみました。

〇デジタル絵本=アニメ・動画を言葉だけ置き換えてごまかしていると感じた

※幼児向けアニメをデジタル絵本と名称をつけることで親の罪悪感をなくす。

〇インタラクティブ機能のあるデジタル絵本は幼児向けのゲームアプリであり依存度が高いと感じた。読み聞かせ時の具体的様子でも、「物語を楽しむ」のではなく、「ゲームとして楽しむ」ことが主目的になっている様子がうかがえて、依存になりうるツールだと感じました

〇紙絵本とデジタル絵本の理解度の比較結果を見て、改めて紙であることが重要で今まで伝えてきたことが間違いではないと再認識できた。

〇別の書籍で見た「パソコンでメモを取るより、紙でメモを取った生徒の方がテストの結果が良い」といったような結果とリンクしているように感じた。

〇最後に出てきた、本をスキャンする知育玩具を見たときに、自分の子どもに幼少期にあたえていた「ワールドファミリー」で、まったく同じようなものがあって笑いをこらえるのに必死でした(笑)調べてみたら今でもありました。

※参考URL　https://world-family.co.jp/program/magic-pen.html

そのうえで、やっぱり「英語が楽しい」ではなく「音が出るのが楽しい」と遊んでいる様子をバカな親が「うちの子天才だ！」と勘違いするのだろうと改めて感じました(笑)

＊工藤インストラクター

大変　興味深いレポートでした。日本と中国の環境の差や　教育に期待することの違いなども　大きく影響してると感じました。

インタラクティブ機能のある絵本は本来の読書とは違う活動になるということでしょうか⁉

こどもが絵本に魅了されるのは視点か主人公を通して絵本の世界を楽しむからだと思います。

デジタル絵本の場合は画面を外部から眺めることにとどまるということでしょうか。

＊吉原インストラクター

デジタルか紙かという是非の他にも、経済の発展と子ども文化の普及、タブレットで学ぶ意味や目的があるのか(ほぼ日本においては、低年齢の段階で不必要と考えられる。例えば、ことばの仕組み・数の概念が遊びや体験で獲得されるなど)など、勉強になりました。

絵本を通して、何を子どもに経験させたいのかと考えると、理解の深まりの差も大事ですが、子どもとの温かい言葉のやり取り(コミュニケーション)かな？と、あらためて思いました。

◎配布した川田先生の概要版の最後、「結果からの示唆」に、☆ナカヤの補足・意見(あくまで個人の解釈です)を加えさせていただきます。

◆結果からの示唆

・全体として、**紙絵本**の読み聞かせの場合に、**幼児の物語理解が最も深くなる**ことが示された。

・先行研究では、関連的インタラクティブ機能の場合は物語理解を促進するという知見もあが、それはその先行研究で使用されていた機能がかなり簡単なものであったことが影響していると考えられる。つまり、関連的なものであっても、**視聴する子どもの年齢や発達に見合ったものでなければ、物語理解を妨害する可能性がある。**

☆王さんの発表を補足

「インタラクティブ機能」を利用して、デジタル絵本を読み進める子どもたちの様子は、「紙の絵本」を読んでもらっている子ども達より、明らかに「夢中！」になっていた。表面的には、子ども達が「好奇心」を持って操作していたり、自分が関わることで画面に変化が現れるので「主体性」が発揮されているようにもみえた。しかし、インタラクティブ機能を楽しそうに自分から操作していればいるほど、「内容の理解」は落ちることが明らかになったのである。「夢中」になっている表層に目を奪われるのではなく、子どもの年齢や発達に合ったものでなければ、「物語理解」を妨害することもあると言えるのではないか。

・先行研究では、デジタル絵本の場合に、親の発話内容の内、タブレットの操作に関するものが増える傾向があることが示されている。今回の実験でも、幼児の中にはタップすることに気を取られ、時に乱暴なほどタップする姿もみられた。これはデジタル絵本の本質的特徴ではないが、幼児と媒体(環境)との適切な関係を考える必要があるかもしれない。つまり、**幼児の場合**には、機器を適切に操作できないときに、保護者や保育者が物語の内容よりも幼児の**操作の方に意識**を奪われてしまうことにより、**子どもも大人も物語の世界に入り込み にくくなる危険性**があるということを認識する必要がある。

☆王さんの発表や川田先生のお話から

「絵本を親子で楽しむ」ことの良さとして、親子の相互作用(親も子も温かい気持ちになれる・コミュニケーションがとれるなど)は、日本では研究成果として自明の理であると言える。今回の実験(幼児の場合)では、そのような「絵本を親子で楽しむ」良さが、デジタル機器の操作によって、子どもの気が逸れたり親が機器の操作の指導をしてしまったりで、「阻害」されている面があることもわかった。

☆「絵本」のような「児童文化財」が、広く一般家庭に行きわたるには、ある程度の経済的余裕が必要である。中国においては、1990 年代のデジタル技術の普及と同時進行したため、日本とは逆で、「デジタル絵本」が進行し「紙の絵本」は遅れて普及し、価格も高い。そのため、「先行研究」もデジタル絵本そのものはもちろん、「インタラクティブ機能」のことも「肯定」する結論が多いそうだ。なので王さんの研究成果が、中国のこれからの「幼児の発達と絵本」に関して課題を投げかけていると言えるのではないだろうか。

☆中国では日本より早く小学生の低学年からオンライン学習が浸透している。その内容や子どもの学習へのメリット・デメリットについての質問が出された。王さんは、「学校に上がる前からオンラインでの学習をしています。例えば、日本語と違い中国語は全て漢字のため、まずは漢字を覚えないとダメなのです。なので、オンラインでの漢字のドリル学習などは、効果があると思います。」・・日本と中国、それぞれの国の歴史や社会状況も違うため、その国の子ども達の発達に良い影響を与えられるオンライン学習が望まれる。

≪　諏訪先生の論文紹介　≫　　「小児内科　54 巻１号」(東京医学社)より

★本医学雑誌は、「特集 COVID-19」を組まれていて、「コロナ禍における子どもとメディア」に 3 氏が執筆され、そのお一人が諏訪先生「子どもとメディア問題」です。

・激変した子どもを取り巻く環境　・コロナ禍でのメディア仕様状況　・乳幼児への影響　・体への影響

・スマホ・ゲーム依存　・ネットトラブル・・・と、「子どもとメディア北海道」で伝えてきた内容を、文献を引用され、根拠となる最新の数字を紹介してくれています。ぜひ、インストラクターの皆様には、ご活用いただければと思います。

★Key　points

＊コロナ流行による自粛生活によって遊びの場が奪われ、子どものメディア使用時間が増加した。

＊通常授業再開後も多くの子どもで、メディア使用時間は減少していなかった。

＊子どものメディア使用の長時間化、習慣化は、生活リズムの乱れ、身体への影響、依存などさまざまな問題をひき起こすおそれがある。

＊新たな問題である学校に配備された端末使用によるネットトラブルへの十分な注意と対策が必要である。

★諏訪先生からのお願い

「会員さんのお役に立てれば幸いです。**二次配布は、お控えくださいね。**」

≪　二つの研修会のご案内　≫

●私は昨年、コロナ禍でしたが、全道で約３０件の子育てや「子どものゲーム・ネット依存、健康被害」についての講演や授業を行いました。全道の先生方が、「ネットやゲームの長時間使用で、子ども達の心身の成長に影響が出ていることが心配だ！」と相談されます。先生方とそれ以外の大人との危機感の違いに焦りの気持ちが起こります。また、最近はコロナ禍もあり、乳幼児期からの長時間使用が日常になってしまっていることを危惧する専門職の声も多いです。一方で、ネットの学びは待ったなしで進められていますし、必要な事です。北海道では、学びには使われず「遊び」に使われてきたことが課題だと感じています。そこでこの度、別途チラシ配布しました２つの研修会を行うことになりました。

① **５月６日(金)１９時～２１時**　ZOOM での研修会

テーマ「ネット・ゲーム依存(傾向)から 北海道の子ども達を守りたい！」

主催「子どもとメディア北海道主催」　　無料

② **６月５日(日)9 時 30 分～16 時**　　全国１０会場をつないでの研修会

北海道会場は、白老町コミュニティーセンター

テーマ「ネット・ゲーム依存傾向の子どもへのアプローチ研修会

～今後、学校で求められるネット依存問題予防教育への提起～」

主催：ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会＆ 群馬大学情報学部伊藤賢一科学研究費プロジェクト

共催：子どもとメディア北海道　他多数　　後援：北海道教育庁胆振教育局・白老町教育委員会　他多数

受講料がかかりますが、安価です。受講すると、すぐに**学校の授業などで使えるパワポの資料**(別途費用)をもらえます。先生方(小中・支援・不登校の支援・養護教諭など) 教育委員会関係者におすすめです。保護者も大歓迎❣このテーマについて、関心のある方ならどなたでも・・白老会場に来られなくても、個人でオンラインでも参加ＯＫ！両方とも申し込み受け付け、始まっています。

① の研修会は主催者なので会員のみなさんは奮って参加してね！諏訪先生のお話が楽しみです💛

② は、依存傾向になっている主に中学生へのアプローチについてなので、私たちの会の弱かった部分です。学びましょう

2022年2月から2022年4月までの活動報告

月　日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
2月5日	白老小学校3・4年生、5・6年生「みんなで学ぼう考えよう～ネットやゲームとのつきあい方～」 ＊小学校内の別教室からの配信(各クラスの大型テレビと接続・子どもの様子は見ることができた)		中谷
18日	「子どもたちへの電子メディアの影響」 ＺＯＯＭ	苫小牧地域児童通所支援事業所連絡協議会研修会	諏訪
25日	オンライン『オンライン社会の子どもとメディア～今、大人ができること～』	上士幌教育研究所 幼少中高教職員向け	工藤
28日	「子どもとメディア北海道」インストラクターとしての取組	日高教育局主催「家庭教育支援研究協議会」	野澤
	白老町家庭教育支援チームの取組		中谷
3月2日	竹浦小学校 3･4 年生、5,6 年生 「みんなで学ぼう考えよう～ネットやゲームとのつきあい方～」		中谷
11日	Zoom 講座「子どもの成長とスマホ・ネット・ゲーム　～ルールを決めよう～」	札幌市立西岡北小学校　家庭教育学級	中塚
14日	オンライン『ネット、ゲームから　自分を守ろう～知っておこう体や心への影響～』	稲田小 5 年生	工藤
15日		稲田小学校 3･4 年生	
17日	オンライン『ネット社会の子どもたち～メディアの心と体の影響～』	稲田小学 PTA 教養部講習会	
4月25日	オンライン『スマホ.ネットのルール』	稲田小学校全校一斉	

★２月から３月下旬まで、まん延防止対策の期間となり、予定されていた授業や講演会が中止になったこともありました。最初からオンライン開催で進めていた場合は、実施されることもあり、オンラインの有効活用が望まれます。

＊＊

会員更新の時期となりました。

2022年度の会費の納入をお願いいたします。年会費（1500円）を、手渡しか、郵便小為替か郵便振り込みにて納入ください。ご面倒をおかけしますが、何卒よろしくお願いいたします。2022年度の情報誌の発行予定月は、2022年7月・10月・2023年1月・4月の4回となります。

年会費の納入方法

①年会費1500円を、事務局に手渡しする。

②郵便小為替1500円分を事務局まで郵送する。

③　中谷個人郵貯口座【中谷通(ナカヤミチ)恵(エ)　19070　53986411】に、振り込む。

(必ず振り込んだことを、ナカヤにメール等か電話で伝えてください。)

〈郵貯から振り込む場合〉

【中谷通恵（ナカヤミチエ）　記号19070番号53986411】に、

〈他行から振り込む場合〉

【　ゆうちょ銀行　九〇八支店　普　5398641　】

＊新規の方や、次年度と情報誌の発送先が変わった方は、事務局まで、住所をお知らせください。（090－3773－8349・michie-n@plum.plala.or.jp）